



乙房通信 第9号

令和4年1月

文責：校長 上淵清美

かしこく学ぶ子 やさしく助け合う子 たくましくやりぬく子

～笑顔あふれる学校～



令和4年を迎え、1月7日に第3学期を無事にスタートし、2週間がたちました。
子どもたちは寒さに負けず、毎日元気にがんばっています。

地域に広がり「こんにちは」

昨年末、宮崎日日新聞に地域の方の投稿が掲載されました。
低学年と中学年くらいの乙房小学校の男の子2人が、元気に挨拶をしてくれた、という内容でした。
その方はその夜、心の中で大きな「花丸」🌸を子どもたちにプレゼントして下さり、「ありがとう！乾杯！」をされたそうです。
乙房小学校の子どもたちを大変温かく見守っていただいているお気持ちが、子どもたちも職員もうれしく、元気をいただいた出来事でした。
また、一人一人が、スクールガードの方をはじめ、見守ってくださっている地域の皆様への感謝と、「あいさつ」について振り返り考える機会にもなりました。5年生の作文を紹介します。



乙房小から全国へ届け「あいさつ」

5年 川畑 未悠奈

私たちの学校は、元気なあいさつを心がけています。
よく帰り道に地域のおばあちゃんと会います。その時に大きな声で「こんにちは」と言うと「元気だね。」と返して下さり、私も気分がよくなります。
私は、新聞を読みました。そこには乙房小のあいさつのが紹介されており、うれしい気持ちになりました。
地域の方は、いつも外に出て私たちの見守りをしてくださっています。
その方々への感謝の気持ちをあいさつで表したいです。
そして私は、乙房から宮崎へ宮崎から全国にあいさつの輪を届けていきたいと思っています。
来年は最高学年になります。まずは、乙房小のいいあいさつを引きついでいきたいです。
そしてこの思いが全国に広がってほしいです。



地域の架け橋「あいさつ」

5年 後藤 稟子

いつもの朝は、あいさつから始まります。「おはようございます。」という声が行き交う時、「いつもの朝がはじまった。」と思います。
以前、新聞に乙房小のことを紹介して下さった地域の方がいました。私は、その方にとっても感謝しています。なぜなら、乙房のいいところ「あいさつ」を、新聞を通して様々な方に伝えてくださったからです。
私は、来年6年生になります。つまり、乙房小の最高学年として「乙房小の顔」として見られます。これまでの乙房小の元気のいいあいさつも引き継いでいかなければならないのだと思います。私は、あいさつを忘れてしまうことがたまにあります。これからは忘れることなく、地域の方々みんながあいさつをしてくれるように、いつも気持ちがいいあいさつができるようにします。
乙房のあいさつを紹介した記事を読んで、やはりあいさつは大事なのだと思いました。これからは、乙房地区の活性化の秘密道具であるあいさつを自分からいつも頑張りたいです。



裏もご覧ください

宮日こども新聞 作品掲載 おめでとう！！

「楽しみは 起きたしゅんかんぴったりと
はりが6時をさしていた時」

6年 永尾 文音さん

「手のひらに 数えきれない 紅葉の葉」

6年 多田 悠士朗さん



「夕暮れが オレンジ色のお風呂みたい
入ってみたいな 空の温泉」

5年 遠矢 正志郎さん



新型コロナウイルス感染への対応

全国的に新型コロナウイルス感染が急激に拡大し、県全域に「感染拡大緊急警報」が発令され、19日には、都城市、三股町が、まん延防止等重点措置区域に指定されました。

学校でも最大限の感染予防のための対応を取り警戒を強めています。保護者の皆様には、登校前のご家族、児童の健康の確認等、様々な点でお手数をおかけしますが、子どもたちの命を守るための対応であるということをご理解いただき、ご協力をお願いします。

※平日の放課後及び土・日曜日の不要不急の外出について

- 県並びに市からの行動要請に基づいた行動をお願いします。
- お子様の遊びでの外出につきましても、学校での対応（密を避ける、学年間の交流の制限）の意図をご理解いただき、お子様へご指導ください。

感染者への差別や偏見、誹謗中傷などを許さない社会へ

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、一部では、感染者やそのご家族、学校が中傷されたり、差別されたりする事態がいまだに起きているそうです。

学校では、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があります。

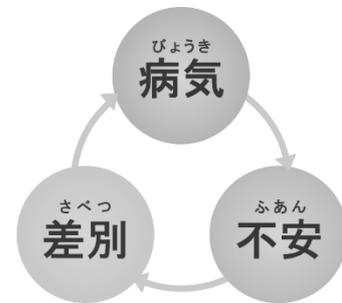
戦うべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗りこえていきたいですね。



3つの“感染症”

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check

負のスパイラルを断ち切るためにできること

- ① “病気”→ウイルスの感染をひろげないために…
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。
- ② “不安”→不安にふりまわされないために…
情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと
- ③ “差別・偏見”→差別や偏見をひろげないために…
言い出しにくい空気をつくらないこと
(自分も言われるのではないかという不安から、症状があっても言い出しにくい空気をつくってしまいます。)



◆新型コロナウイルス～差別・偏見をなくそうプロジェクトの資料をもとに作成しました。

